

住民との対話による魅力あるまちづくり

全行政区での地域懇談会が終了

本年度の地域懇談会は、開催時期の調整により昨年の11月9日から今年の1月19日までの長期間にわたって、これまでと同様に全行政区を対象に21会場で開催しました。

今回の懇談会では、国の緊急経済対策を含め21年度に取り組んでいる分野別の重点施策や町の財政状況、世界遺産登録に向けた再チャレンジの取り組み経過などの概要について、地域の皆さんとの対話を通して、今後の平泉町のまちづくりに向けて活発な意見交換が

行われたところです。町民の皆さんから頂いた貴重な意見や要望を踏まえながら、今後のまちづくりに生かし、町民一人ひとりが輝いていけるような「小さくともキラリと光るまちづくりを目指して」町政運営に取り組んでいきます。

今後も住民との対話を通じたまちづくりに向けて、来年度以降についても地域懇談会を開催していく予定です。ぜひこれからも一緒に当町の将来を考えていきましょう。◎問い合わせ先…総務企画課 ☎46-5578

寄せられた主な質問、意見など

Q 世界遺産登録への期待も大きいことから、観光産業に力を入れなければならないと思うが、何を中心に取り組むのか？

A 観光産業はすそ野が広い産業であり、当町では年間約200万人の観光客が訪れることから、商業活動や地域雇用など地域産業における経済波及効果が相当あると考える。現在、農家民泊プロジェクトや地産地消による農産加工品の販売など、地域の魅力をアップさせ、通過型観光から滞在型観光への転換を図っていきたいと考えている。

Q 中尊寺通り（県道平泉停車場中尊寺線）は、今のままでは歩いてつまらないと感じると思う。今後の整備予定はどのようなものか？

A 中尊寺通りの整備については、中尊寺通りまちなみ整備検討会において、人も車も譲り合う歩道のない「歩者共存道路」として議論を重ねてきている。現在、中尊寺通りの模型を製作し、ワークショップなどを活用しながら、まちの再生を図るための計画策定作業に取り組んでいる。

Q 行財政改革（集中改革プラン）の達成率はどのくらいなのか？

A 当町の集中改革プランは22年度が最終目標年度であり、21年度については約90%の達成見込みである

が、計画全体での進捗率は55%ほどで厳しい状況にある。未達成の主な要因としては、計画当初予定していた町保有の遊休地の売り払いが、このような経済状況の悪化などにより進まなかったことが挙げられるが、今後も目標達成に向けて各種取り組みを検討し努力していく。

Q 現在建設中の長島公民館には常駐の職員を配置するのか？

A 公民館に常駐の職員を配置するのは難しいと考えているが、公民館や球場、体育館が一つの敷地内にあることから、今後、管理面で臨時職員の配置を考えていきたい。

Q 長島小学校の本年度新入学児童は10人だったと思うが、少子化対策など人口を増やすための施策は考えているのか？

A 国全体で出生率が低下してきていることから、国レベルでの少子化対策として子どもを産み育てやすい環境整備が必要であると考えている。当町では現在、保育所、幼稚園で第3子以降の保育料や使用料の無料化、乳児等医療費の一部助成の拡充など、子育て世代の経済的負担の軽減を図るとともに、幼稚園での3歳児保育の開始や保育施設の修繕など、子育て環境の整備を積極的に進めているところである。



町営毛越寺駐車場内に建設された農産物加工直売施設。オープンは2月20日を予定

町はこのほど、町営毛越寺駐車場内に農産物加工直売施設を建設しました。町内産の農産物を用いたパンや漬物、惣菜などを製造販売。農業と観光を合わせて振興することで、町全体の活性化につなげます。オープンは2月20日を予定しています。施設は木造平屋建てで床面積約152平方メートル。パン、漬物、仕出し・惣菜の加工場、売店、管理事務室、更衣室などで構成されています。建設費約3000万円と備品代約1800万円を合わせた計約4800万円の事業費には、国の地域活性化・生活対策臨時交付金が充てられます。

施設を運営する指定管理者は、町指定管理者制度運営委員会による審査、町議会12月定例会の議決を経て、農事組合法人アグリ平泉（佐々木正代表理事）が担うことが決まりました。テナントには、パンのアグリ

Interview

地域活性化と平泉のPRを

農産物加工直売施設管理責任者、農事組合法人アグリ平泉事務局長 佐々木章さん（17区）



アグリ平泉はこれまで、小麦と大豆の生産を事業の主体としてきました。しかし生産だけでは、国の生産補助金の変動で事業経営が大きく左右されてしまいます。作物を加工販売し、経営安定につなげようと今回、農産物加工直売施設の指定管理者に立候補しました。施設の運営に当たっては、地場産品をふんだんに使った商品の加工販売に努め、地域活性化と平泉ブランドの全国へのPRにつなげたいと思います。町民の皆さんからもぜひ気軽にアイデアを頂き、今後の商品開発につなげていきたいと思っています。

平泉、仕出しと惣菜のこさか豆腐店（千葉佳代子店主）、漬物の小野寺郁子さん（14区）の3者が独立採算制で参加。それぞれが町内産の農産物を使用して商品を生産し、同施設の直営店舗

で販売します。商品の展示や販売方法などは、平泉商工会の「五感浄土・商品開発ブランド事業」にも参加しているコンサルティング会社・ブレイントラストアンドカンパニー（仙台市）が指導します。テナント関係者らは2月20日のオープンに向け、観光客に好まれる商品展開の検討、加工品の試作、設備や機器の操作方法の習得などを重ねて準備を整えています。

農産物加工直売施設が2月20日にオープン

農業と観光の振興へ